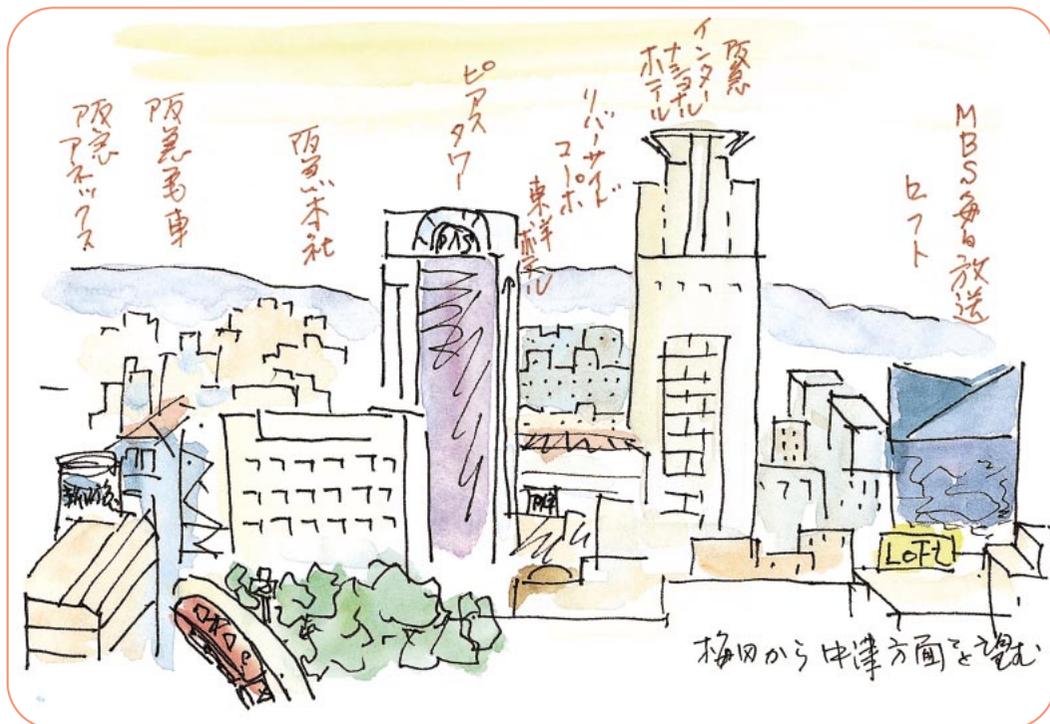


大阪医科大学学報

第52号 平成14年5月
(インターネット版)



目

平成14年度医学部・大学院入学宣誓式	2
最終講義	5
新任教授紹介	8
規程関係	9
寄附金	15
平成14年度収支予算	16
学位記授与	18
平成14年度科学研究費補助金内定について	20
平成14年度入学試験・国家試験状況	23

次

学術奨励金等	23
職場紹介	24
学内行事	26
西部地区金曜会	28
平成13年度市民公開講座	28
会議・行事予定	29
附属病院関係	32
保健管理室からのお知らせ	33
俳句	35

医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

平成14年度 医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

医学部医学科および大学院医学研究科の入学宣誓式が、4月3日（水）午後2時から臨床第1講堂において挙行され、医学部医学科100名（男子74名・女子26名）、大学院医学研究科40名（男子33名、女子7名）が入学しました。



学長告辞

新入生諸君ご入学おめでとう！ 保護者の皆さまご子弟のご入学おめでとうございます。また、本日は法人役員の先生にもご出席賜り厚く御礼申し上げます。

まず初めに諸君が今日あるのは、日頃、生活の面倒をいただいたご両親を始め、学校の先生方、友人、クラブの諸先輩方、その他多くの方々への支援によるものであったことをまず感謝すべきであり、決して自分一人の努力によるものでなかったことを肝に銘じておいていただきたい。

さて、これから過ごされる6年間というのは、新入生にとってはとても長く感じられるでしょうが、丁度10日前に、105名の卒業生を送り出したところですが、卒業生から見ますとあっという間の6年間であったということです。もっとやりたかったこと、勉強しておきたかったことが心残りという学生が毎年多くおられます。本

学の1期生は90歳を越えられまだ元気な先輩が大勢おられます。どなたとお話ししましても、学生時代のことを昨日のように話されます。それほど、諸君たちが経験するこの青春期の6年間は終生生き思い出として強く記憶に残ることになります。この、6年間に有意義に過ごすための条件を3つ話し学長から諸君へのメッセージとします。

まず、一つは、何のために医学部を目指したのかももう一度目的をはっきりしておくことです。医学部を目指した目的は何であったか。諸君は、医者になるために、医学部を目指したといわれるでしょう。では次に入学して、どのような医者になるためにこの6年間に過ごされるのでしょうか。本学がどのような医者を養成しているかご存知でしょうか。それは一に建学の精神にあります。本学の「建学の精神」は、校歌に歌われております。本学は、昭和2年に、我が国最初の5年制高等医学専門学校として創設されました。当時、日本は人口増加に悩んで

おり、その解決策として移民を考え実行しました。海外に開拓団として送るとき医療の担い手としての医師を養成することを目的に本学は設立されたわけであります。校歌に出ております、嗚呼南冥の空遠く、かのアマゾンの岸の花、はた崑崙かゴビの原は、開拓団と共に医療の担い手として遠く南米ブラジル、東南アジア、中国に雄飛することを歌っております。時が流れ、現在では、グローバル社会で活躍できる良医を養成することが建学の精神となっております。これに答える医者となるために勉学を励むのか、あるいは、自分でどういう医者になろうとするのか早く目的を定めその目標に向かって突き進んでいただきたい。人は目的を失った時、不平、不満を言うと言われています。諸君の口から不平、不満が出たとき、それは諸君が目的を失っている時であります。

二つ目は、心に余裕、ゆとりを持っていただきたい。「趣味悠々」という言葉がありますが、卒業までに夢中になれるような趣味を是非ひとつ身につけていただきたい。そのためには、クラブに入り活動するのがもっとも手取り早い方法であります。諸君が卒業後、臨床をやる限り諸君の周りによってくる人は病める人たちであって、健康な人はまず来られません。その時に、心をリフレッシュできるのが、趣味をもっていることでもあります。これにより、「潤いある人生」を過ごすことができます。

三つ目は、毎日朝飯を食べて大学に来ていただきたい。朝食を取るということは、規則正しい生活ができているということでもあります。私

が本学に入学した時、京大の3羽カラスと言われた杉本好一先生のことを思い出します。先生は、京大を卒業後、国立栄養研究所所長を勤められ、本学の医化学教授として赴任された方で、健康の定義を「めしうまい、夜良く眠れて、風引かぬ」と言われておられました。つまり、健康の第一条件は、まず、ご飯をおいしく食べられるということでもあります。新入生の学外合宿時と学年の中ごろにあります公衆衛生実習時でそれぞれ測定しております体力トレーニングとアンケート調査によるデータを取っておりますが、朝食を毎回取っている学生とそうでない欠食学生とでは有意に体力差が見られました。また、同時に規則正しい生活習慣が身についているかどうかにも差が見られました。体力がなければ、心にゆとりができません。心にゆとりがなければ、目的、目標を失いがちになります。以上のことを心にしっかりと刻み付け悔いのない青春を送っていただきたい。

最後となりましたが、大学院の諸君にはこの4年間で研究者として独立できる、基本的知識・技能・態度を身に付けられ、課程修了までに国際社会に通用する論文を一本仕上げていただきたい。諸君が研究される専門分野には世界的にどのような雑誌がノミネートされどのような評価を得ているのか、図書館に行けば簡単に知ることができます。出来上がった研究をできるだけ上位の雑誌に投稿して、世界の専門領域の学者の評価を得るように挑戦していただきたく存じます。そうすれば、次なる仕事に向けて、大きな自信がつくこととなります。

医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

平成14年度 入学者

(医学部医学科)

浅石 健	大西 孝典	木澤 隼	玉田 拓也	朴 憲秀	堀田 史子	矢倉 幹啓
芦原 敬允	大野 司	北口 和真	塚本 琢磨	長谷川義仁	前田 和也	安形 省吾
飯田 直子	大場 彦明	工藤 健史	東海 陽介	花野 侑子	前田 大介	安川 陽子
石田 貴昭	大平 幸代	小池 隆夫	土佐 將人	羽山 祥生	増田 重樹	矢部俊太郎
井手 善教	岡本 光平	小西 隼人	富田 恭代	稗田 信弘	増田 友紀	山内 洋平
伊藤 志保	奥 久徳	小西 優輝	内藤 尚	東 薫	松居 一悠	山田 美和
伊藤 新平	奥 雄介	小原 勇気	中 悠	平田 有基	松野 裕旨	山名 英希
伊藤 大輔	奥田 篤	小山 泰司	中島 一記	廣正 聖	松本 和寛	横濱 桂介
井上 陽介	小野 賀大	佐藤 陽平	中林 ゆか	福田 明	松本 倫	吉田 真教
上田 和利	小山田 絢	重村 友香	中村 文香	福原 彩	三木 高平	依藤 直紀
上原 陽治	垣尾 勇樹	重本 翔	西尾 桂奈	藤城 高広	宮岡 雄太	
宇高 千恵	河勝 千鶴	杉浦英里子	西垣 匠	藤野圭太郎	三宅 隆雄	
江島 綾	川口 真平	立川 奈央	西本 祐希	藤原 淳	宮里 舞	
大地 史広	川口 直	田中健太郎	西脇 聖剛	文 俊貴	宮田 とも	
大塚 愛	川口 浩史	田中 千春	布谷健太郎	別所 優	村西 佑介	

(100名)

(大学院医学研究科)

遠藤 咲子	吉中 亮二	恒松 一郎	山本 聖	莊園 雅子	池田 直廉	服部 匡次
奥野 隆司	宮下 実	細谷 俊光	七里 元督	足立 和也	朝子 晃憲	兵 佐和子
横山 勲	桐村 和義	三井 剛	住吉 一浩	大西 峰樹	辻本 真实	北野 直
横山 邦生	近藤 圭策	山岡 繁夫	森内 宏充	大塚 宏治	貞広 克彦	李 相雄
河原 邦彦	金網 規夫	山下 光里	菅 敬治	辰巳 嘉章	東野 正明	
梶浦 貢	桑原ちひろ	山鳥 江美	西村 東人	谷口 博理	柏木 充	

(40名)

最終講義

本年3月定年を迎えられた、麻酔科学森秀鷹教授、耳鼻咽喉科学牧本一男診療教授、第1生理学今井雄介教授の最終講義が、臨床第1講堂において下記のとおり行われました。

<麻酔科学 森秀鷹教授>

1. 日時 2月27日(水) 15:00~16:30
1. 演題 『麻酔が変わる』

ここ数年で麻酔が劇的に変わる可能性がある。150年前から笑気が使われ現在までつづいている。1960年代に入って初めての合成吸入麻酔薬であるハロタンが登場した。非常に強力な麻酔薬で有用であり大量に使用されていたが、1970年代に入って重篤な副作用が報告されるようになった。すなわち、発癌性、催奇性、変異性、胎児死亡などである。このころこれに関する大量の論文が発表され、またその後手術室環境に麻酔ガス汚染が存在することとともに、アメリカの手術室看護婦に胎児異常が存在し、麻酔医の健康障害が問題にされるようになった。我が国麻酔学会でも、この問題は大きく取り上げられ大がかりな文献的レビューが発表された。これを得て、麻酔ガスを手術室から排除しようとする試みが全国的、全世界的になされ現在では麻酔ガスはすべて吸引装置で室外へ排除されるシステムとなっている。その後、ハロタンは使用症例が増えるにつれてハロセン肝炎、悪性高熱症などの合併症が目につくようになりより新しい麻酔薬に置き換わった。現在はエーテル結合を伴って、水素部分がハロゲンに置き換わっ



た合成吸入麻酔薬が使用されている。

話が変わって、現在地球温暖化、オゾン層の破壊がエコロジーの観点から問題になっている。これが吸入麻酔薬と非常に関係が深く、麻酔学会では、吸入麻酔薬を減らすべくいろいろな試みがなされている。笑気は地球温暖化に寄与し、他のハロゲン化吸入麻酔薬はフロンとなり塩素を放出する。一塩素原子は一万個以上のオゾン破壊する。笑気は120年間大気中に存在しつづける。麻酔が変わるのは主に薬剤の発達による。

1. 亜酸化窒素は必要か

笑気は鎮痛作用が強く非常に使いやすい。現在、笑気を全く使用せずに麻酔を行うケースも増えてきている。また、笑気を全く使用しない施設も存在する。

2. 低流量麻酔

ガス流量を減らすことによって吸入麻酔薬の絶対量を減らすことが出来る。最近のモニターの発達によってこれが可能となっている。ただ完全な低流量麻酔には専用の麻酔器が必要になる。

3. 理想的吸入麻酔薬

以前から、キセノンに麻酔作用のあることが分かっていた。単独で麻酔が可能であり鎮痛作用も強力であるが、大気中には僅かにしか存在しない。抽出にはコストがかかるが技術の進歩によりこれが可能となるやも知れない。

4. 全静脈麻酔

吸入麻酔薬を全く使わずに、すべてを静脈麻酔で行う。薬学の発達によることが大きく、現在強力な静脈麻酔薬および鎮痛薬が使用可能となりつつある。TARGETを脳に置きこを EFFECT SITEとして4コンパートメントとしてシミュレーションを行いコンピュータ処理により薬物注入を自動的に行う。麻酔深度をモニターし、筋弛緩をモニターすれば完全な自動化が可能である。

5. 硬膜外・脊髄麻酔

麻酔の4つの十分条件のうち意識消失をのぞく3つをカバーできるので、意識消失のみ催眠剤で補う。すべての全身麻

酔医に置き換わることは出来ない。

今後、エコロジーの観点から、薬剤の発達に伴い現在の麻酔方法が大きく変わる可能性がある。

<耳鼻咽喉科学 牧本一男診療教授>

1. 日時 3月13日(水) 14:00~15:30

1. 演題 『内耳の研究をふりかえって』

私が内耳の研究を始めたのは入局して3年目で1965年頃であった。最初の研究は外リンパのグルコサミン(ヒアルロン酸の構成成分)の定量を行うことであった。その後、外リンパ、内リンパのグルコースの動態について一連の実験を続けた。そうしている時アメリカの同じ研究をしている施設から呼んでいただきペンシルバニア大学の耳科学研究室で仕事をする事となった。ここではメニエール病など諸耳疾患より採取された内耳液について生化学的検索を行った。また中頭蓋窩法による上前庭神経切断術が及ぼす内耳液の生化学的変化、病理組織学的変化について検討した。

帰国後は内耳液電解質の研究が主となり、先ず胎生後期の発達段階での内リンパの高K、低Naの形成と蝸牛内静止電位の形成を観察した。次にグリセロール投与の内耳液に対する脱水効果を電解質の濃度測定で検討した。1985年、大阪医大に着任してからは蝸牛血流の研究に専念するようにした。この間7名の共同研究者を得て血流に影響を与える灌流圧、血管径、血液粘度などの各因子毎に諸種薬剤の蝸牛血流への効果を分析した。現在は蝸牛血流におけるNOの関与を知ろうとしNO合成阻害剤による実験を続け



ている。

これ迄の研究をふりかえると自分自身これで良いのか自問自答しながらやって来たような気がする。そのような際、あまり自分を追い詰めると自己嫌悪に陥るので、研究はいわば仮構築であって、むしろそれをその後 refineして行くために継続する事こそが大切だと思うようにしていた。続ける事は愚かに見えることもあるがそれは力となるという先人の言葉を信じてそれに引っ張られて来た感じがする。それにしても2度となく止めようとした私が、続けられたのはその時の人との出会いであったし、また共同研究者がその時の研究に不安を抱かず研究を遂行してくれた事、またIdeaを出してくれた事、このような自分以外の力に支えられてきたのが大きかったと思う。私の研究は大阪医大を去ることで終わりになるが今にしてする私の感慨と言え少年老い易く学成り難しと言わなければならない。今回は私の各時代の研究をまとめてお話をさせていただいたが、このような形で話ができるよう機会と時間を下さったことに、本学の学長を始め関係各位に心よりお礼を述べたい。

<第1生理学 今井雄介教授>

1. 日時 3月13日(水) 16:00~17:30

1. 演題 『生体システムのグラフ表現

- 能動輸送からパワー連結現象へ -』

大阪医科大学第一生理学講座の中西政周教授、深見安教授の後任教授として1974年11月就任した。在任中、唾液腺の分泌の実験研究と生体システムのグラフ表現の理論研究を行った。

唾液腺の分泌の実験では、イオン輸送に伴う腺細胞の膜電位変化(分泌電位)の成因を明らかにした。また唾液分泌は垂直に立てたポリエチレン管を3.5メートルの高さまで上昇する能動的な現象であることを示した。ここで分泌の駆動力はイオン輸送に伴う浸透現象であり、イオン輸送は代謝エネルギーを使う能動輸送と受動輸送等が協同してシステムとして働く現象であることを明らかにした。これらを以前に制作した医学教育講座のビデオで紹介した。

生体はシステムとして認識する必要がある。



私のシステム認識とは、システムの機能に注目し、その機能を支える内部メカニズムを考え、その内部メカニズムは細分化したサブシステムの諸機能から成立するといった入れ子構造を考えることからなる。さらにサブシステムの内部メカニズムは入れ子構造のサブサブシステムの諸機能の相互作用から成立すると考える。こうして入れ子構造をもつシステムのレベルを2、3段に亘って考える。一方システムの熱力学的考察から、システムではパワー釣合則が成立し、正味入力パワーは蓄積パワー、変換パワーと散逸パワーの総和と釣合うことを明らかにした。パワーは有効エネルギーの変化速度であって、仕事率の単位を持つ。パワー釣合則を根拠として回路網熱力学の手法を改善した。

唾液腺の場合、組織液という環境の中で、腺房細胞と導管細胞の協同作業で分泌が起こる。分泌腺房細胞は細胞膜、溶液区画、細胞内構造物、成分等から成る。すなわち細胞膜はパワー蓄積がなく輸送を行う散逸サブシステムとして、細胞等の溶液区画は散逸がなくパワー蓄積サブシステムとして考える。細胞膜では受動輸送とパワー連結現象である能動輸送等が含まれる。能動輸送は化学反応パワーを輸送パワーに変換し利用する。2次能動輸送は輸送パワーを他の輸送パワーに変換し利用する。P. Mitchelのミトコンドリアでの化学浸透現象はプロトンの輸送パワーをATP合成といった反応パワーに変換し利用する。化学反応は反応パワーを他の反応パワーに変換し利用する。これらすべての現象は、一方のパワーの一部を他方のパワー過程に移し利用する過程で、パワー連結現象として一般化できる。

膜輸送ではパワー連結現象の理解が必要である。パワー連結は散逸サブシステムであって、パワー釣合が成立する。入力パワーは変換と散逸の和と釣合う。パワー連結は酵素のような特種な媒体上でパワーが変換を受け、自発的な散逸過程が起り、パワーの一部が変換を受け他方に渡される現象である。こうした理解から始めてパワー連結現象のグラフ表現が可能となった。

膜輸送システムをパワー連結を含むグラフで表現すると、その理解が容易となる。またグラフモデルと実験から具体的な係数をもった現象論方程式を導出することができ、生体システムの挙動をシミュレートできる。唾液分泌、蛙皮能動輸送、膵臓導管、膵臓細胞のメカニズムなどのシミュレーションに成功している。以上を要約すれば、能動輸送の機構から生体システムのパワー連結現象の内容を明らかにし、グラフ表現を可能としたということになる。

最後に、指導、協力、理解、有用なコメントを頂きました国内、諸外国の諸先輩、諸先生、諸学会の友人、教室の共同研究者諸氏、またこのような研究環境を頂いた大阪医科大学、教授、教職員諸氏、学生諸君、教室秘書に深く感謝し、御礼申し上げます。

新任教授紹介

新任教授紹介

森秀磨教授の後任として、平成14年4月16日、大阪医科大学麻醉科学講座教授を拝命致しました。

麻醉科学講座は、初代の故兵頭正義教授により創設され、森秀磨先生が発展させてこられた教室であり、手術麻酔、ペインクリニックおよび集中治療を担当しています。

私は、昭和62年に大阪医科大学を卒業し、大阪医科大学麻醉科学教室に入局し、大阪医科大学附属病院で手術麻酔、ペインクリニック、集中治療および大阪府三島救命救急センターで救命救急に従事してきました。

私のライフワークは、痛みの研究で、故兵頭正義教授が始められた麻醉科学教室の主要な研究テーマの一つであり、私が大学院生時に、大阪バイオサイエンス研究所第4部門副部長（現関西医科大学医化学教室教授）伊藤誠二先生の下で脊髄レベルでのプロスタグランジンの痛覚伝達機構の研究を始めたのがきっかけでした。

現在、大阪医科大学附属病院中央手術室での手術件数は年々増加の一途であります。これをカバーするには十分なマンパワーが必要であります。このため、学生には麻酔の重要性、魅力をアピールして、入局後は個性を尊重し、互いに発展していく医局を目指しています。社会に貢献できる人材育成、ライフワークである難治性疼痛の発現機構の解明を目指して最善を尽くす決意でございますので今後とも宜しく御指導をお願い申し上げます。



麻醉科学講座
南 敏明（40歳）

昭和62年3月 大阪医科大学卒業
平成5年3月 大阪医科大学大学院修了、医学博士
平成5年8月 大阪医科大学助手
平成13年1月 大阪医科大学学内講師
平成14年4月 大阪医科大学教授

平成5年4月 私立大学麻醉科優秀論文賞
平成6年11月 平成6年度日本医師会医学研究助成
平成8年5月 第2回盛記念学術賞
平成8年5月 平成7年度仁泉会研究奨励賞
平成10年3月 第29回内藤記念科学奨励
平成10年4月 1997年度 Astra Research Award

規程関係

規程制定

大阪医科大学附属病院医療費補助規程の制定について

大阪医科大学附属病院医療費補助規程および大阪医科大学職員等医療費補助内規が次のとおり制定されました。

なお、本規程制定に伴い大阪医科大学附属病院医療費割引規程は廃止されました。

大阪医科大学附属病院医療費補助規程

(目的)

第1条 この規程は、大阪医科大学附属病院における医療費（以下、「医療費」という。）の補助を行うことを目的とする。

(内規の制定)

第2条 医療費の補助対象者、補助額、補助手続等、制度の運営上必要な事項については、別に定める内規による。

(規程の改廃)

第3条 この規程の改廃は、理事会の議を経て行う。

附 則 この規程は、平成14年2月1日から施行する。

大阪医科大学職員等医療費補助内規

(目的)

第1条 この内規は、大阪医科大学附属病院医療費補助規程第2条に定める医療費の補助対象者並びに補助額等を定めることを目的とする。

(補助対象者)

第2条 医療費補助の対象となる者は、次の各号に該当する者とする。

- 一 理事長、常務理事、理事、常任監事、監事及び相談役（本人及びその配偶者。子については、私学事業団の被扶養者として認められた者）
- 二 本学職員及びそれらの配偶者、子（配偶者及び子については、私学事業団の被扶養者として認められた者）
- 三 評議員、顧問、参与（いずれも本人のみ）
- 四 副手、専攻医、研修医（いずれも本人のみ）
- 五 大学院生、学部学生、看護専門学校生徒（いずれも本人のみ）
- 六 名誉教授、功労教授、勤続30年以上の定年退職者本人。
ただし、補助期間は退職後15年間とする。
- 七 理事長の許可を得た者。

規程関係

(補助内容)

- 第3条** 医療費。1名ごとに1ヵ月4,000円以下とする。
ただし、他法による療養費の給付がある時は除く。
2. 入院した場合の室料差額の5割。

(補助手続)

- 第4条** 補助手続は、別に定める内規による。

(内規の改廃)

- 第5条** この内規の改廃は、理事長が行う。

附 則

1. この内規は、平成14年2月1日から施行する。
2. 本内規施行日にかかわらず、第2条第1項第一号から第五号に規定された者は、大阪医科大学附属病院医療費割引規程（平成14年1月15日廃止）廃止日の翌日に遡及して、第3条の補助適用を受けることができる。
なお、大阪医科大学附属病院医療費割引規程廃止により、割引の対象であった名誉教授及び勤続15年以上定年退職者については第2条の規定にかかわらず、本人に限り、平成29年1月31日まで本内規の対象とする。

学校法人大阪医科大学管理職者及び専門職者任期制度に関する内規の制定について
学校法人大阪医科大学管理職者及び専門職者任期制度に関する内規が次のとおり制定されました。

学校法人大阪医科大学管理職者及び専門職者任期制度に関する内規

(目的)

- 第1条** 学校法人大阪医科大学に勤務する管理職者及び専門職のうち管理職者と同待遇の者（以下、「管理職員等」という）の効率的な人事配置と人材の育成、活性化を図ることを目的にその任期に関する内規を定める。

(主旨)

- 第2条** この内規は、管理職員等の原則的な任期を定めたものであり、最長在任期間までの職位を保証するものではない。
2. 職位定年制度もしくはこの制度で定めた任期のうち、どちらか先に期日の到達する日をもってその職位の任期満了とする。

(管理職員等の範囲)

- 第3条** 管理職員等の職位範囲は次のとおりとする。なお、大学教育職員の任期は別に定める。
- 1 部長職：部長、部長代理
 - 2 課長職：課長（技師長） 婦長、事務長、教務主任
 - 3 課長代理職：第2号の代理者
 - 4 専門職：担当部長、参事、副部長、担当課長（技師長）、担当婦長、主幹

(管理職員等職位の任期)

第4条 管理職員等の任期は、満4年に達した日の属する年度末とし、再任を妨げない。

附 則 この内規は、平成14年4月1日から施行する。

大阪医科大学非常勤教員及び非常勤医師に関する内規の制定について
大阪医科大学非常勤教員及び非常勤医師に関する内規が次のとおり制定されました。

大阪医科大学非常勤教員及び非常勤医師に関する内規

第1条 大阪医科大学の教育、研究、診療の充実に図るため基礎医学に非常勤教員、臨床医学に非常勤医師を置くことが出来る。その取扱いについては、本内規による。

第2条 非常勤教員及び非常勤医師とは、次の各号に該当する者とする。

- 一 非常勤教員は基礎医学教室において、主任教授の指導のもとに教育、研究に従事する者。
- 二 非常勤医師は臨床医学教室において、主任教授の指導のもとに教育、研究、診療に従事する者で医師又は歯科医師免許を取得している者。

第3条 非常勤教員及び非常勤医師を希望するものは、非常勤教員・非常勤医師許可申請書を当該教室の主任教授を経て学長に提出するものとする。

第4条 学長の許可を得た非常勤教員の教育、研究の期間及び非常勤医師の教育、研究、診療の期間は1ヵ年以内とし、毎年年度末をもって終了する。
ただし、主任教授を経て更新手続をとり学長の許可を得た者は、1年間更新することができ、その後の更新についても同様とする。

第5条 学長は非常勤教員及び非常勤医師として不適当と認めた場合は、許可を取消すことが出来る。

第6条 年度の途中で辞退しようとするときは、辞退届を当該教室の主任教授を経て学長に提出しなければならない。

第7条 非常勤教員及び非常勤医師は無給とする。

第8条 非常勤教員及び非常勤医師の期間は、研究歴には算入しない。

附 則 1 この内規は、平成14年4月1日から施行する。
2 基礎実習員及び臨床実習医の制度は廃止する。ただし、現に平成14年4月1日現在基礎実習員、臨床実習医を許可されている者は、平成15年3月31日までその身分を存続するものとする。

規程改正

大阪医科大学学則の改正について
大阪医科大学学則が次のとおり改正されました。

大阪医科大学学則（関係条文新旧対照表）

新						旧							
第7章 授業料その他の納入金 (授業料その他の納入金)						第7章 授業料その他の納入金 (授業料その他の納入金)							
第36条 授業料その他の納入金、及び納入期限は、次のとおりとする。						第36条 授業料その他の納入金、及び納入期限は、次のとおりとする。							
(第1学年次)						(第1学年次)							
期間	納入期限	納 入 金 額			計	期間	納入期限	納 入 金 額			計		
		授業料	実習料	施設拡充費				授業料	実習料	施設拡充費			
第1期	入学時	61万円	12万円	41万円	114万円	第1期	入学時	61万円	12万円	41万円	114万円		
第2期	9月15日	61万円	12万円	41万円	114万円	第2期	9月15日	60万円	12万円	40万円	112万円		
第3期	1月15日	60万円	10万円	40万円	110万円	第3期	1月15日	60万円	10万円	40万円	110万円		
合 計		182万円	34万円	122万円	338万円	合 計		181万円	34万円	121万円	336万円		
(第2学年次以降)						(第2学年次以降)							
期間	納入期限	納 入 金 額				計	期間	納入期限	納 入 金 額				計
		授業料	実習料	施設拡充費	教育充実費				授業料	実習料	施設拡充費	教育充実費	
第1期	1月15日	61万円	12万円	41万円	90万円	204万円	第1期	1月15日	61万円	12万円	41万円	90万円	204万円
第2期	9月15日	61万円	12万円	41万円		114万円	第2期	9月15日	60万円	12万円	40万円		112万円
第3期	1月15日	60万円	10万円	40万円		110万円	第3期	1月15日	60万円	10万円	40万円		110万円
合 計		182万円	34万円	122万円	90万円	428万円	合 計		181万円	34万円	121万円	90万円	426万円
附 則 この改正は、平成14年4月1日から施行する。 ただし、平成13年度以前から在学する者については、改正後の第18条、第36条の規定にかかわらず、なお従前の例による。													

(大阪医科大学学則別表1)

新								旧									
区分	授業科目	受講学年次及び単位数						必修・選択	区分	授業科目	受講学年次及び単位数						必修・選択
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年				計	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	
総 合	人間科学Ⅰ(哲学)	2					2	いずれか	人間科学Ⅰ(哲学)	2					2	いずれか	
	人間科学Ⅰ(倫理学)	2					2	1科目選択	人間科学Ⅰ(倫理学)	2					2	1科目選択	
	人間科学Ⅱ(日本史)	2					2	"	人間科学Ⅱ(日本史)	2					2	"	
	人間科学Ⅱ(西洋史)	2					2	"	人間科学Ⅱ(西洋史)	2					2	"	
	人間科学Ⅲ(文学)	2					2	"	人間科学Ⅲ(文学)	2					2	"	
	人間科学Ⅲ(宗教学)	2					2	"	人間科学Ⅲ(宗教学)	2					2	"	
	人間科学Ⅳ(法学)		2				2	"	人間科学Ⅳ(法学)		2				2	"	
	人間科学Ⅳ(社会学)		2				2	"	人間科学Ⅳ(社会学)		2				2	"	
	国際言語文化(英語)	2	1				3	必修	人間科学 SGL	2					2	必修	
	国際言語文化(ドイツ語)	2	1				3	"	国際言語文化(英語)	2	1				3	"	
	国際言語文化選択(英語)		1				1	いずれか	国際言語文化(ドイツ語)	2	1				3	"	
	国際言語文化選択(ドイツ語)		1				1	1科目選択	国際言語文化選択(英語)		1				1	いずれか	
	国際言語選択(医用英語)	1					1	"	国際言語文化選択(ドイツ語)		1				1	1科目選択	
	国際言語選択(フランス語)	1					1	"	国際言語選択(英会話)	1					1	"	
国際言語選択(フランス語)	1					1	"	国際言語選択(フランス語)	1					1	"		
スポーツ健康科学(保健体育)	1					1	必修	国際言語選択(フランス語)	1					1	"		
生命科学Ⅰ(物理)	5					5	"	スポーツ健康科学(保健体育)	1					1	必修		
生命科学Ⅱ(化学)	5					5	"	生命科学(物理)	5					5	"		
生命科学Ⅲ(生物)	5					5	"	生命科学Ⅱ(化学)	5					5	"		
数理科学(数学)	2					2	"	生命科学Ⅲ(生物)	5					5	"		
細胞生物学		2				2	"	数理科学(数学)	2					2	"		
生体物質化学		2				2	"	細胞生物学		2				2	"		
分子生物学		2				2	"	生体物質化学		2				2	"		
SGL	2	1				3	"	分子生物学		2				2	"		
早期体験実習	0.5	0.5				1	"	生命科学 SGL	2	1				3	"		
医学入門	1					1	"	早期体験実習	0.5	0.5				1	"		
医学物理学		1				1	"	医学入門		1				1	"		
医学情報学		1				1	"	医学物理学		1				1	"		
医学心理学	1					1	"	医学情報学		1				1	"		
スポーツ健康科学2		1				1	"	医学心理学		1				1	"		
発生学		2				2	"	スポーツ健康科学2		1				1	"		
骨・神経解剖学		2				2	"	発生学		2				2	"		
肉眼解剖学		8				8	"	骨・神経解剖学		2				2	"		
組織学		2				2	"	肉眼解剖学		8				8	"		
生理学		12	1			13	"	組織学		2				2	"		
医化学		9.5	1			10.5	"	生理学		12	1			13	"		
薬理学		9.5				9.5	"	医化学		9.5	1			10.5	"		
微生物学		6				6	"	薬理学			9.5			9.5	"		
基礎病理学		3				3	"	微生物学		6				6	"		
免疫学		2.5				2.5	"	基礎病理学		3				3	"		
BML配属				1		1	"	免疫学		2.5				2.5	"		
合計	41.5	54	40.5	[53] 56		24.5	卒業に必要な単位数は必修を含めて205.5単位修得	合計	43.5	54	40.5	[53] 56	24.5	218.5	卒業に必要な単位数は必修を含めて207.5単位修得		

規程関係

大阪医科大学倫理委員会規則および教授会申し合せの改正について
大阪医科大学倫理委員会規則および倫理委員会委員の構成にかかる教授会申し合せが次のとおり改正されました。

大阪医科大学倫理委員会規則（関係条文新旧対照表）

新	旧
第2条 委員会は <u>9名</u> の委員をもって組織する。	第2条 委員会は <u>8名</u> の委員をもって組織する。
附 則 この改正は、平成14年3月6日から施行する。	

教授会申し合わせ（関係条文新旧対照表）

新	旧
本学倫理委員会委員の構成 について （平成14年3月6日教授会申し合せ） 本学倫理委員会規則第2条に定める <u>9名</u> の委員の構成は、当分の間、 <u>講座制教員より7名</u> （基礎医学系3名、臨床医学系4名）、 <u>学科目教員</u> より1名及び学外の学識経験者より1名とする。 なお、学外の学識経験者とは、本学の役員、評議員その他非常勤教職員を含むものとする。 以 上	本学倫理委員会委員の構成及び専門委員会委員の人数 について （昭和61年2月5日教授会申し合せ） 本学倫理委員会規則（以下「規則」という）第2条に定める <u>8名</u> の委員の構成は、当分の間、 <u>専門課程より6名</u> （基礎医学系3名、臨床医学系3名）、 <u>進学課程</u> より1名及び学外の学識経験者より1名とする。 なお、学外の学識経験者とは、本学の役員、評議員その他非常勤教職員を含むものとする。 以 上

記念継続事業(新病棟建設)に係る寄附金の応募状況について

区分	項目	寄附金	
		件数	総額(円)
	本法人役員・評議員	9	4,934,920
	教職員	21	1,745,000
	仁泉会会員(大阪医科大学卒業生)	106	25,510,000
	白友会会員(看護専門学校卒業生)	54	2,698,000
	学生保護者	10	2,700,000
	法人等(個人、一般含む)その他	78	67,767,840
	計	278	105,355,760

平成14年3月31日現在

寄附金申込者

平成14年1月1日から3月31日までの間に寄附金申込者は、7件、金額 2,050,000円です。
ここに寄附金申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

学生保護者 3件、金額500,000円

土井 秀美、中島 崇夫、楠 昌樹

法人等(個人、一般含む)その他 4件、金額1,550,000円

寄附者

前川株式会社

有限会社すばる印刷

株式会社ダスキンヘルスケア

医療法人福寿会

代表者

代表取締役 前川 佳史

代表取締役 野村 昌男

代表取締役 城所 忠孝

理事長 宇都宮睦房

募金目標額：10億円

募金期間：個人(特定公益増進法人寄附金)
法人(") }平成14年1月1日～平成18年12月31日

法人(受配者指定寄附金) 「受配者指定寄附金」の受入承認後から2年間

寄附金額：個人1口1万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

法人1口10万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

当寄附金に対しては、所得税または法人税の減免措置が受けられます。

募金に関する問い合わせ先：大阪医科大学募金推進室 TEL 0726-84-6344(直通)

平成14年度 収支予算について

総務部財務課

<平成14年度予算の編成方針について>

平成14年度予算は、本年3月30日の評議員会の審議を経て、同日開催の理事会で承認決定されました。その基本的な考え方は、平成14年度には診療報酬の改訂による大幅な収入の減少が見込まれるので、前年度までの経緯にとらわれずゼロからのスタートを心がけること、中長期計画にのっとった予算組をすること、帰属収支差額を5億円の黒字にもっていくこと、人件費のカットも視野に入れること、予算の重点配分をすることでありました。

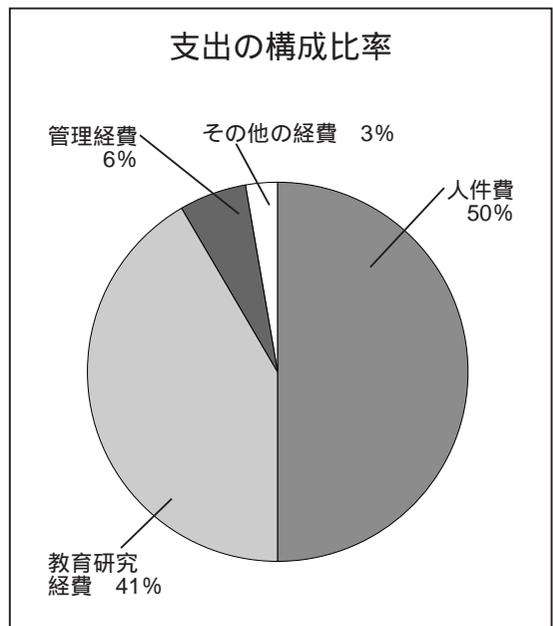
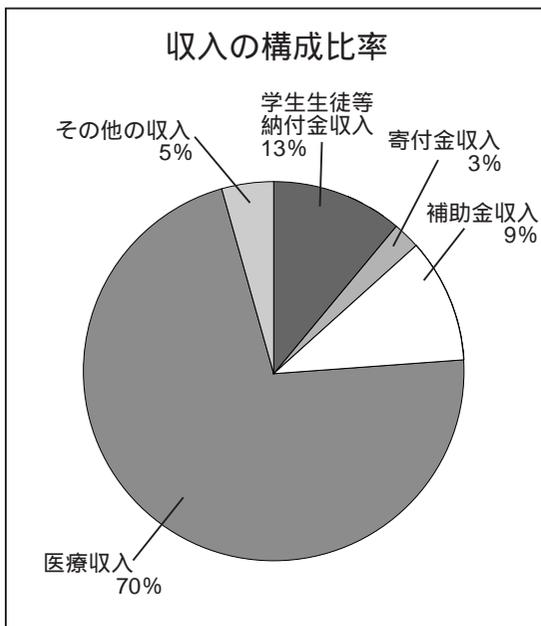
なお、本年7月にはいよいよ病院7号館の建設に着手致しますので、この関係の諸費用については別途予算措置をしております。

平成14年度 主なる事業計画

平成14年度の主なる事業計画（事業予算各2000万円以上）は次のとおりです。

（事業内容）

- 1) 超高速光ファイバー通信網（ギガビットネットワークシステム）一式
- 2) 体外衝撃波結石破砕装置 一式
- 3) 附属病院熱源及び外来棟1・2階系統空調機改修工事
- 4) 総合研究棟：機器共同利用センター（3階）改修工事
- 5) さわらぎキャンパス移転費用



平成14年度 収支予算について

平成14年度 収支予算

消費収支予算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	平成14年度 予算額	平成13年度 予算額	増減()	科 目	平成14年度 予算額	平成13年度 予算額	増減()
学生生徒等納付金収入	3,227,240	3,118,740	108,500	人 件 費	12,994,326	12,837,852	156,474
手数料収入	72,465	72,876	411	教育研究経費	10,846,977	11,507,886	660,909
寄付金収入	672,540	721,515	48,975	管理経費	1,634,167	1,464,251	169,916
補助金収入	2,277,831	2,349,695	71,864	借入金等利息	83,198	85,324	2,126
資産運用収入	280,240	336,777	56,537	資産処分差額	39,084	67,775	28,691
事業収入	303,822	369,328	65,506	徴収不能額	14,854	7,167	7,687
医療収入	18,219,883	18,513,330	293,447	予備費	300,000	300,000	0
雑収入	574,593	472,397	102,196				
帰属収入合計	25,628,614	25,954,658	326,044	消費支出の部合計	25,912,606	26,270,255	357,649
基本金組入額合計	1,372,199	2,531,571	1,159,372				
消費収入の部合計	24,256,415	23,423,087	833,328	当年度消費支出超過額	1,656,191	2,847,168	1,190,977

資金収支予算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	平成14年度 予算額	平成13年度 予算額	増減()	科 目	平成14年度 予算額	平成13年度 予算額	増減()
学生生徒等納付金収入	3,227,240	3,118,740	108,500	人 件 費	12,640,614	12,482,254	158,360
手数料収入	72,465	72,876	411	教育研究経費	9,650,972	10,259,563	608,591
寄付金収入	646,440	695,415	48,975	管理経費	1,497,043	1,363,238	133,805
補助金収入	2,277,831	2,349,695	71,864	借入金等利息支出	83,198	85,324	2,126
資産運用収入	280,240	336,777	56,537	借入金等返済支出	2,258,361	2,062,321	196,040
資産売却収入	0	4,000,000	4,000,000	施設関係支出	243,804	1,823,920	1,580,116
事業収入	303,822	369,328	65,506	設備関係支出	1,138,257	1,063,057	75,200
医療収入	18,219,883	18,513,330	293,447	資産運用支出	76,320	5,068,000	4,991,680
雑収入	574,593	472,397	102,196	その他の支出	3,333,618	3,092,152	241,466
借入金等収入	500,000	2,850,000	2,350,000	予備費	300,000	300,000	0
前受金収入	969,713	1,092,820	123,107				
その他の収入	4,319,301	4,632,899	313,598				
資金収入調整勘定	4,348,963	4,311,007	37,956	資金支出調整勘定	2,538,607	3,222,977	684,370
前年度繰越支払資金	8,813,148	5,587,933	3,225,215	次年度繰越支払資金	7,172,133	5,404,351	1,767,782
収入の部合計	35,855,713	39,781,203	3,925,490	支出の部合計	35,855,713	39,781,203	3,925,490

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支予算上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

学位記授与

平成13年度学位記授与〔大学院医学研究科課程修了者〕

大学院医学研究科課程修了による学位論文申請者に対する審査の結果、平成14年3月20日をもって10名が合格し、3月25日（月）の学部卒業式と合同で学位記授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第627号	奥野 高司	Evidence that nitric oxide is involved in autoregulation in optic nerve head of rabbits (家兔視神経乳頭血流における自動調節能への一酸化窒素の関与)
甲第628号	河崎 敦	近位尿管細胞の高K ⁺ 負荷による脱分極誘発性細胞内pHの変化について
甲第629号	木浦 宏真	Bactericidal activity of electrolyzed acid water from solution containing sodium chloride at low concentration, in comparison with that at high concentration (低濃度食塩水電気分解産物の殺菌作用について)
甲第630号	喜田 照代	The mechanism and change in the optic nerve head (ONH) circulation in rabbits after glucose loading (糖負荷による正常家兔視神経乳頭血流の変化)
甲第631号	合田 公志	Pancreatic volume in type 1 and type 2 diabetes mellitus (1型及び2型糖尿病患者における膵体積の検討)
甲第632号	寺田 哲也	Effect of oral antigen administration on nasal blockage in experimental allergic rhinitis in guinea pigs (抗原の経口投与が実験的アレルギー性鼻炎モデルモットの鼻閉に及ぼす影響について)
甲第633号	天上 俊之	Prognostic Significance of p27 ^{kip1} Protein Expression and Spontaneous Apoptosis in Patients with Colorectal Adenocarcinomas (大腸癌患者におけるp27 ^{kip1} 蛋白発現とアポトーシスの予後因子としての重要性)
甲第634号	坂 良逸	-Tocopherol transfer protein expression in rat liver exposed to hyperoxia (高濃度酸素がラットの肝臓における -トコフェロール輸送蛋白質の発現に及ぼす影響)
甲第635号	姫井 昭男	The influence on the schizophrenic symptoms by the DRD2 Ser/Cys311 and -141C Ins/Del polymorphisms (DRD2遺伝子多型Ser/Cys311、-141C Ins/Delが精神分裂病の症状に与える影響)
甲第636号	渡辺 敏夫	低濃度0.01%トロピカマイド点眼試験における加齢の影響

〔論文提出による合格者〕

所定の審査が行われた結果、平成14年3月20日をもって9名が合格し、3月22日（金）午後2時から第2会議室において学長及び指導教授出席の下、授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第920号	岡本由記子	Preventive effect of chymase inhibitor on postoperative adhesion formation (キマーゼ阻害薬の癒着防止効果)
乙第921号	平野 博嗣	Expression of matrix metalloproteinases, tissue inhibitors of metalloproteinase, collagens and Ki-67 antigen in pleural malignant mesothelioma: An immunohistochemical and electron microscopic study (胸膜悪性中皮腫におけるマトリックスメタロプロテアーゼ、メタロプロテアーゼ・インヒビター、コラーゲンおよびKi-67抗原の発現：免疫組織化学的および電子顕微鏡的検討)
乙第922号	小島 博	Long-term histological prognosis and serum fibrosis markers in chronic hepatitis C patients treated with interferon (インターフェロン治療を行ったC型慢性肝炎患者における長期的な組織学的予後と血清線維化マーカーについて)
乙第923号	森本 大成	経静脈用ペースメーカーリードの耐用性に関する臨床的検討
乙第924号	渡辺 一弘	An estimation of buffer values of human whole blood by titration experiment under the open condition for carbon dioxide gas (滴定実験によるCO ₂ 開放条件下のヒト全血の緩衝価の推定)
乙第925号	森田 琢也	気管支断端縫合閉鎖における粘膜除去法の有用性に関する検討
乙第926号	安住 治彦	C型慢性肝炎におけるFas系誘導の細胞死の意義について
乙第927号	譚 暁天	Multidetector-row CTを用いた下咽頭、喉頭病変の三次元立体画像の臨床評価 - 発声時撮影の有用性の検討 -
乙第928号	宮崎 貞恵	Role of transesophageal echocardiography in the prediction of thromboembolism in patients with chronic nonvalvular atrial fibrillation (慢性非弁膜症性心房細動患者の血栓塞栓症の予測における経食道心エコー図法の役割)

平成14年度 科学研究費補助金内定について

平成14年度 科学研究費補助金内定について

平成13年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した179件の研究計画に対し、本年度は59件、総額111,100千円の内定がありました。

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額		
				H14年度	H15年度	H16年度
特定領域研究	ピリドキサル酵素のプロトン移動過程の解明に基づくコンポジット触媒の開発	医化学 助教授	林 秀行	*8,600	8,400	0
特定領域研究	リボソームの100S～70S変換 - 定常期における蛋白合成制御機構の研究 -	物理学 助教授	和田 明	2,000	0	0
基盤研究(B) 一般	網膜グリア細胞における神経保護作用	眼科学 教授	池田 恒彦	*3,400	0	0
基盤研究(B) 一般	抗癌剤感受性増強を誘導する遺伝子群(EPR-1, dCK, TP)による治療研究	一般・消化器外科学 教授	谷川 允彦	*4,200	3,300	0
基盤研究(B) 一般	脊髄における痛覚伝達の生理学的、薬理的、生化学的解析	麻酔科学 教授	南 敏明	*4,600	0	0
基盤研究(B) 一般	キマーゼの心血管疾患における病態生理学的役割の解明	薬理学 教授	宮崎 瑞夫	8,000	3,300	3,000
基盤研究(B) 一般	劇症1型糖尿病の発症機序	内科学 教授	花房 俊昭	9,200	4,800	0
基盤研究(B) 一般	骨髄細胞および遺伝子治療を用いた血管新生療法の開発	脳神経外科学 助教授	宮武 伸一	7,100	3,200	0
基盤研究(C) 一般	侵襲下におけるリンパ球 Apoptosis 誘導の機序とその制御	一般・消化器外科学 講師	平松 昌子	*500	0	0
基盤研究(C) 一般	A - Vshunt Loop の血管新生と再生工学に関する実験的研究	形成外科学 講師	大場 創介	*100	0	0
基盤研究(C) 一般	胃粘液開口放出反応の細胞内調節機序の相異と胃粘膜防御機構に関する研究	内科学 講師	島本 史夫	*800	0	0
基盤研究(C) 一般	骨格筋細胞に対するデヒドロエピアンドロステロン硫酸の作用とその分子メカニズム	内科学 助手	古玉 大介	*700	0	0
基盤研究(C) 一般	アポトーシス誘導遺伝子baxおよび自殺遺伝子を融合させた膀胱癌に対する遺伝子治療	解剖学 助教授	柴田 雅朗	*100	0	0
基盤研究(C) 一般	尿路上皮癌モデルを用いた浸潤・転移・血管新生に関するヘパラーゼの研究	泌尿器科学 講師	郷司 和男	*500	500	0
基盤研究(C) 一般	蝸牛血流調節におけるNOの役割	耳鼻咽喉科学 助手	星島 秀昭	*500	500	0
基盤研究(C) 一般	皮弁再灌流障害のメカニズム	形成外科学 助教授	上田 晃一	*1,000	0	0
基盤研究(C) 一般	骨格筋の解糖系の調節機構に関する分子生物学的研究	化学 講師	渡邊 房男	*700	0	0
基盤研究(C) 一般	心筋梗塞後の病態生理における組織レニン・アンジオテンシン系の役割	薬理学 講師	金 徳男	*1,600	0	0
基盤研究(C) 一般	単純ヘルペス脳脊髄炎の発症におけるCCケモカインによる免疫制御	病院助手 助手	中嶋 秀人	*900	0	0
基盤研究(C) 一般	拡張型心筋症患者の心臓移植摘出心と実験的心筋炎後心筋症におけるウィルス病因の研究	内科学 診療助教授	出口 寛文	*300	0	0

平成14年度 科学研究費補助金内定について

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額		
				H14年度	H15年度	H16年度
基盤研究(C) 一般	拡張型心筋症患者心筋におけるジストロフィンの変性とウイルス感染の関与に関する研究	内科学 学内講師	浮村 聡	*600	0	0
基盤研究(C) 一般	非定型精神病の分子遺伝学的研究	神経精神医学 学内講師	康 純	*1,400	700	0
基盤研究(C) 一般	肝臓移植における脂肪肝移植の成績向上に向けての研究	一般・消化器外科学 講師	林 道廣	*2,100	500	0
基盤研究(C) 一般	癌特異的プロモーターを導入した組換え単純ヘルペスによる転移性肝癌治療の研究	一般・消化器外科学 診療助教授	豊田 昌夫	*1,400	0	0
基盤研究(C) 一般	ラット不全心に対するeNOS遺伝子導入骨髄細胞移植による冠血管新生の試み	胸部外科学 学内講師	堀本 仁士	*900	0	0
基盤研究(C) 一般	動脈硬化を伴った攣縮血管に対する遺伝子組み換えヘルペスウイルスを用いた治療の研究	脳神経外科学 学内講師	田村 陽史	*900	0	0
基盤研究(C) 一般	特発性側弯症の病因 - 遺伝的胸椎前弯・前側弯兎を用いて -	整形外科 診療助教授	瀬本 喜啓	*1,600	0	0
基盤研究(C) 一般	共焦点レーザー生体顕微鏡を用いた痛みの研究	麻酔科学 助手	宇田のみ子	*1,200	800	0
基盤研究(C) 一般	トランスサイレチン関連アミロイドーシスにおける繊維化分子機構の解明	病態検査学 学内講師	岸川 匡彦	*1,600	0	0
基盤研究(C) 一般	三次元自由エネルギー解析によるアミノ基転移酵素のプロトン移動機構の研究	医化学 助教授	林 秀行	*1,400	0	0
基盤研究(C) 一般	地域の自立高齢者における脳循環代謝機能と日常生活活動能力、抑うつ症状との関連	衛生学・公衆衛生学 助教授	渡邊 丈眞	1,200	800	700
基盤研究(C) 一般	児童虐待診断の指標となる情報伝達物質の検索に関する研究	法医学 助教授	西尾 元	900	800	0
基盤研究(C) 一般	起立性調節障害のタイプ別発症機序解明ならびに包括的治療開発に関する臨床研究	小児科学 助教授	田中 英高	1,700	600	500
基盤研究(C) 一般	睡眠中に出現する異常運動に起因する睡眠障害の診断治療および分子遺伝学に関する研究	神経精神医学 助教授	黒田 健治	2,200	1,300	0
基盤研究(C) 一般	一酸化窒素による睡眠及び意識制御の可能性について	神経精神医学 講師	松村 人志	1,700	1,600	0
基盤研究(C) 一般	ヒト子宮内膜におけるbc1 - 2転写因子	解剖学 教授	大槻 勝紀	1,400	1,300	700
基盤研究(C) 一般	頭頸部扁平上皮癌におけるシクロオキシゲナーゼ - 2 の発現と増殖および転移活性	耳鼻咽喉科学 助教授	河田 了	2,700	800	0
基盤研究(C) 一般	修飾蛋白質（亜硫酸化、ニトロソ化他）の精密構造と生成過程の解明、臨床検査への応用	病態検査学 教授	清水 章	2,200	1,300	0
基盤研究(C) 一般	糖尿病性網膜症における硝子体中血管新生制御因子の発現プロテオミクス	病態検査学 講師	中西 豊文	2,200	1,300	0
基盤研究(C) 一般	ヒスチジノールリン酸アミノ基転移酵素の構造と機能	医化学 助手	水口 博之	1,200	1,000	0
萌芽研究	サル眼を用いた慢性視神経乳頭循環障害モデルの作成と正常眼圧緑内障との関係	眼科学 助手	廣辻 徳彦	*600	0	0
萌芽研究	細胞外マトリックス分解酵素活性の新しい組織内検出方法の確立とその応用	病理学 助教授	岡田 仁克	1,100	700	0

平成14年度 科学研究費補助金内定について

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額		
				H14年度	H15年度	H16年度
萌芽研究	病原細菌が保有する逆転写酵素に関する研究	微生物学 教授	佐野 浩一	1,500	700	500
萌芽研究	動脈硬化および臓器移植後血管狭窄に対する特異的複製可能型ウイルスによる遺伝子治療	脳神経外科学 助教授	宮武 伸一	1,700	1,400	0
若手研究 B)	分子遺伝学的手法を用いたパニックディスオーダーの成因解明	神経精神医学 助手	稲田 泰之	*1,000	0	0
若手研究 B)	メタンフェタミン投与によるラット脳内NMDA型受容体サブユニットの変化について	中央検査部 助手	豊田 裕敬	*700	0	0
若手研究 B)	増殖因子受容体を標的とする組換え型イムノトキシンを用いた免疫ターゲティング	一般・消化器外科学 助手	篠原 尚	*800	0	0
若手研究 B)	survivin を標的とした腫瘍特異的な遺伝子治療の基礎的研究	一般・消化器外科学 助手	山本 哲久	*900	0	0
若手研究 B)	スギ花粉症マウスに対する抗原の経口投与は免疫寛容を誘導するか？	耳鼻咽喉科学 講師	萩森 伸一	*200	0	0
若手研究 B)	疾患関連蛋白質（Hb・TTR・SOD - 1等）検出・同定の半自動化の研究	病態検査学 学内講師	宮崎 彩子	*500	0	0
若手研究 B)	スフィンゴ脂質合成を律速するセリンパルミトイルトランスフェラーゼの活性発現機構	医化学 助手	生城 浩子	*900	0	0
若手研究 B)	レチノイン酸耐性の急性前骨髄性白血病における転写共役因子の役割について	小児科学 助手	瀧谷 公隆	1,200	900	500
若手研究 B)	胃癌微小リンパ節転移検出に用いる新規遺伝子マーカー単離に関する研究	一般・消化器外科学 助手	馬淵 秀明	2,700	700	0
若手研究 B)	覚醒下ラット勃起モデルを用いた高血圧自然発症ラット（SHR）の勃起機能について	泌尿器科学 助手	岩本 勇作	2,500	800	0
若手研究 B)	子宮体癌のアポトーシスにおけるシグナル経路の解明	解剖学 助手	阿部 英明	1,200	1,600	0
若手研究 B)	IL - 2レセプター 鎖を中心とした胎盤形成の免疫学的制御機構について	解剖学 助手	日下部 健	2,600	800	0
若手研究 B)	血管新生を分子標的とした婦人科癌の発育・進展機序とその制御	産婦人科学 助手	寺井 義人	1,800	1,400	0
若手研究 B)	アレルギー性鼻炎モデル動物における抗原の経口投与とNALTの関連性について	耳鼻咽喉科学 助手	寺田 哲也	2,700	600	0
若手研究 B)	INF - γ KOマウスでの脱毛とINF - γ および同種移植による発毛の分子機構の解析	形成外科学 助手	大宮 由香	1,200	1,000	1,000

* 印は前年度以前からの継続分

平成14年度 入学試験及び国家試験状況

平成14年度入学試験状況

(単位:人)

	志願者数	受験者数	入学者数
医学部医学科	1155	1032	100
大学院医学研究科	41	41	40

医師国家試験状況

	総数	新卒	既卒
受験者数(人)	121	105	16
合格者数(人)	107	96	11
合格率(%)	88.4	91.4	68.8

(全国平均 90.4%、私大平均 87.4%)

(単位:人)

		志願者数	受験者数	入学者数	
看護専門学校	第一看護学科	一般推薦	177	162	32
		推薦	17	17	13
	第二看護学科	一般推薦	95	94	32
		推薦	11	11	8
	計		300	284	85

看護婦国家試験状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第一看護学科	45	43	95.6
第二看護学科	38	33	86.8
計	83	76	91.6

(全国平均 84.3%、近畿平均 83.8%)

学術奨励金等

第10回認定内科専門医会研究奨励賞 [社団法人 日本内科学会認定内科専門医会]

研究課題	所属・職・氏名	助成金額
末梢血T細胞表面発現ケモカインレセプターの解析による多発性硬化症の病態評価	病院助手 助手・中嶋 秀人	20万円

2002年度米国臨床留学助成 [財団法人 日米医学医療交流財団]

留学先	所属・職・氏名	助成金額
Johns Hopkins University Orthopaedic Surgery Biomechanics Laboratory	整形外科教室 大学院生・三幡 輝久	63万円

平成14年度共同利用研究 [京都大学原子炉実験所]

研究課題	所属・職・氏名
熱外中性子を用いた悪性脳腫瘍に対する非開頭中性子捕捉療法の臨床的研究	脳神経外科学教室 教授・黒岩 敏彦
トランスフェリン、リポソームを利用した悪性グリオーマに対する硼素中性子捕捉療法	脳神経外科学教室 教授・黒岩 敏彦

職場紹介

臨床治験センター

1 1998.4.1日米欧3極合意ICH: International Conference on Harmonization of Technical Requirement for Registration of Pharmaceuticals for Human useガイドラインに準拠した厚生省令28号: 医薬品の臨床試験の実施に関する基準(新GCP: Good Clinical Practice)が完全実施され、大阪医大における臨床試験が科学的かつ倫理的に行われることを目的に、平成12年4月臨床治験センターが設立されました。臨床治験センターの場所は、院外処方推進に伴い薬剤部の調剤業務が地下1階に移転したことで空いた1階一部分を改修した16番お薬お渡し口の西側部分です。組織構成としては、センター長: 耳鼻咽喉科竹中洋教授、副センター長: 小児科玉井浩教授、実務担当者として専任薬剤師2名、専任看護婦1名、短時間雇用事務員2名、兼務事務員2名で平成12年10月から、新GCPの対象となる

「医薬品製造承認のための臨床試験(治験)」「再評価・再審査のための市販後臨床試験」中心に業務を行っています。なお、治験個々のプロトコルを通常診療の流れに乗せ、患者さまに安心して治験に参加していただけるよう、そして、逸脱のない質の高い治験を行っていくため部署間の問題について連絡調整する業務の治験コーディネーター業務(CRC: clinical research coordinator)に関しては、同時期より全診療科を対象として実施いたしております。



業務内容

治験事務局業務：

申請・契約の事務手続、治験記録及び資料保存

治験審査委員会事務局業務：

治験計画の倫理性および科学性を検討する委員会への資料作成

CRC業務：

治験開始までに治験実施計画書の検討や問題点を整理、同意説明文書作成の補助、ワーキングシート作成、スタートミーティングなど臨床支援スタッフへの治験説明、治験が始めれば同意取得補足説明、来院に関する患者面談（被験者日誌、質問表記入サポート）、検査及び処方確認、被験者のスケジュール調整、検査データの確認と連絡、症例報告書作成補助、逸脱発生時の対応、それ以外に被験者相談窓口、被験者募集広告の対応などCRCの業務としては、医学的判断を伴う以外の治験業務は全て対応できると考え支援業務としています。

質とスピードを求め日本の製薬会社も海外に治験をシフトさせている現状では、わが国における治験の将来性も危惧される分野ではあります。しかし、国民の健康増進には欠くべからざる性格をもっています。また本学では治験を収益事業の一環として位置づけられています。

治験センターは、早期被験者エントリー及び実施率の向上、治験に対する社会的および学内的評価の向上を目標としています。これら目標達成のために、ホームページ開設、院内・院外・インターネット等による被験者募集のための広報、治験推進の必要性理解のための職員への啓発、担当医師の意欲向上のための環境整備、地域医療機関で連携した治験ネットワークの構築、年間計画立案のための市場調査等のような業務を推進していきたいと考えています。また、大阪医科大学における臨床試験を統括・管理するという設置の目的を果たすために、現在、各方面に分散しています市販後調査、特別調査、臨床研究、医療用具臨床治験審査委員会事務局業務に関しても、独立採算の面から環境整備および体制が整い次第、業務移管を予定しております。

（文責：竹中）

学内行事

平成13年度 卒業証書・学位記授与式

医学部医学科および大学院医学研究科の卒業証書学位記授与式が、3月25日（月）午後2時から、臨床第1講堂において挙行され、115名の卒業生・修了生達はそれぞれの思い出を胸に母校から巣立っていきました。

医学部医学科卒業生（第51回） 105名
 大学院医学研究科修了生 10名



学位記授与（医学部医学科）



学位記授与（大学院医学研究科）

平成13年度 卒業生

（医学部医学科）

青松 友槻	大西 宏之	清原 忠彦	瀧本 真也	西川 周治	古川 雅史	宮田 至朗
安賀 文俊	大藪 顕	工藤 勝秀	谷 岳人	西谷 仁	星野 宏光	宮本 裕之
浅野 正子	岡本 直之	久米 清士	谷口 亘	西脇 佳世	發知 淳子	三好 邦和
足立 和也	小鳥 真司	桑門 心	築家 直樹	長谷川彰彦	堀部 智之	村井 克行
天野 信行	加藤 由美	小林吉之助	辻 重継	長谷川直子	鱒淵 誉宏	村越 太
石井 亘	金澤 秀次	小林 由佳	辻 洋志	長谷川弘人	松岡 龍彦	最上 夏帆
石田 久美	金本 高明	小山 耕平	辻本 直之	秦 亜有	松下 葉子	森本 和宏
稲田 悠紀	河合真理子	佐藤 芙美	椿原 理紗	服部 昌子	松村 英樹	安井 昌子
井上 貴之	川上 研	澤井 宏美	中尾 亮太	林 篤史	松本 専	山形 桂司
井上 奈緒	川口 善史	庄田 武司	中川 吉更	原 舞	松本 崇宏	山下 太郎
井上 裕章	川西 京子	新保 大樹	中口 辰宣	平松 敦子	松山 友美	山田 寛之
今西 将史	木谷 公紀	新保有佳里	中西 勇人	廣渡 要	三上 典子	山田 慶朋
榎本 智子	木戸 一二	瀬浦 敏志	中野 大輔	藤阪 智弘	三井 統子	山本 幸子
大井 幸昌	衣笠 和孝	高木麻起子	中村 健次	船木 清伸	三村 真土	豊 奈々絵
太田真紀子	木下 明彦	高島 優	中本とあこ	舟木 準	宮崎 敬士	四方田光弘

（105名）

（大学院医学研究科）

奥野 高司	木浦 宏真	合田 公志	天上 俊之	姫井 昭男
河崎 敦	喜田 照代	寺田 哲也	坂 良逸	渡辺 敏夫

（10名）

平成13年度看護専門学校卒業式



看護専門学校の卒業式が3月7日(木)午後1時から、臨床第1講堂において挙行され、第一・第二看護学科計83名の卒業生が巣立っていきました。

第一看護学科(第17回) 45名
第二看護学科(第33回) 38名

新入職員辞令交付式



4月1日(月)午前10時から、臨床第1講堂において、同日付け新規採用者126名に対し、辞令が交付されました。

(内訳)

事務職員	3名
技術職員	4名
看護職員	119名

第7回新入生学外合宿実施



パソコン実習

平成14年度医学部新入生に対する学外合宿が京都レクリエーションセンター「亀岡ハイツ」において、新入生100名と教職員約30名の参加のもと、4月4日(木)~6日(土)の2泊3日にわたり実施されました。

新入生達は、グループ討論、ビデオ鑑賞、コンピュータ演習、救命処置体験学習、懇親会などの多彩な日程の中、互いに親睦を深めました。



リレー



亀岡ハイツ玄関前にて

平成14年度看護専門学校入学式



看護専門学校入学式が4月9日（火）午後1時から、臨床第1講堂において挙行され、第一看護学科45名、第二看護学科40名、計85名が入学しました。

西部地区金曜会開催



日本私立大学連盟の西部地区金曜会が4月19日（金）正午から本学が当番校となり、38大学（54名）が出席して、たかつき京都ホテルで開催されました。

平成13年度 市民公開講座

平成13年度市民公開講座が下記のとおり開催されました。

【第7回】

1月19日（土） 午後2時～
臨床第1講堂

『肝炎』

講師 本学 第1内科学 福田 彰

『お薬について』

講師 附属病院薬剤部



主要会議とその主な議題

2月1日から4月30日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(2月26日)

- 報告事項 -

1. 施設計画事業本部報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他(学事・病院関係報告)

(3月12日)

- 審議事項 -

1. 学校法人大阪医科大学顧問の委嘱について
2. 大阪医科大学附属看護専門学校長の選任について
3. 附属病院長の委嘱について
4. 大阪医科大学学則の一部改正について
5. 自己取引について

- 報告事項 -

1. 施設計画事業本部報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他(学事・病院関係報告)

(3月30日) その1

- 報告事項 -

1. 平成13年度資金収支決算見込状況報告書について

- 審議事項 -

1. 平成14年度予算について「平成14年度主なる事業計画を含む」
2. 理事の選任について
3. 評議員の選任について
4. 大阪医科大学非常勤教員及び非常勤医師に関する内規の制定について
5. 自己取引について(継続審議)

(3月30日) その2

- 審議事項 -

1. 監事の選任について

- 報告事項 -

1. 施設計画事業本部報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. その他(学事・病院関係報告)

(4月9日)

- 審議事項 -

1. 常務理事の選任について

2. 学校法人大阪医科大学顧問の委嘱について

3. 旧図書館・医局棟解体について

4. 自己取引について(継続審議)

- 報告事項 -

1. 北西キャンパス賃貸借契約について

2. その他(学事・病院関係報告)

[評議員会]

(3月30日)

- 報告事項 -

1. 平成13年度資金収支決算見込状況報告

- 審議事項 -

1. 平成14年度予算について「平成14年度主なる事業計画」を含む

2. 監事の選任について

3. 次回評議員会議長代理の選出について

- 報告事項 -

2. 新総合棟(病院7号館)基本設計について

3. その他(学事・病院関係・看護専門学校関係報告)

[教授会]

(2月6日)

1. 人事に関する件

2. 附属病院血液浄化センター長の選考に関する件

3. 専攻医等の制度の整理に関する件

4. 臨床教育教授及び臨床教育助教授の選出に関する件

5. その他

- 1) 大阪医科大学学生褒章について

- 2) 大阪医科大学英語版公式ホームページ(案)について

- 3) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について

(2月21日)

1. 平成14年度入学試験に関する件

2. 人事に関する件

3. 専攻医等の制度の整理に関する件

4. その他

- 1) 学則の一部改正について

- 2) 医学部生の退学願出に関する件

- 3) 臨床教育教授及び臨床教育助教授の選出について

会 議・行事予定

(2月25日)

1. 平成14年度入学試験に関する件
2. 図書館長選挙に関する件
3. 附属病院長に関する件
4. 各種委員会委員の改選に関する件
5. その他
 - 1) 臨床教育教授及び臨床教育助教授の選出について
 - 2) 次期BULLETIN編集委員会委員長の指名

(3月6日)

1. 人事に関する件
2. 名誉教授称号授与に関する件
3. 教授選挙に関する件
4. 附属病院長選挙に関する件
5. 形成外科学講座担当教授選考に関する件
6. 大阪医科大学倫理委員会規則一部改正に関する件
7. 各種委員会委員の改選に関する件
8. その他
 - 1) 救急医学カリキュラム作成委員会委員の変更について

(3月20日)

1. 人事に関する件
2. 第1・2・3・4学年の進級合否判定に関する件
3. 教授選考に関する件
4. 第1学年生の休学願出に関する件
5. 各種委員会委員の改選に関する件
6. その他
 - 1) 保健管理室室長の委嘱について
 - 2) 大阪医科大学非常勤教員及び非常勤医師に関する内規(案)について
 - 3) 形成外科学講座担当教授選考推進委員会委員の選出について

(4月2日)

1. 平成14年度入学者決定に関する件
2. 教授選考に関する件

(4月10日)

1. 人事に関する件
2. 第3学年生の復学願出に関する件
3. 平成14年度入試に関する委員会委員の選出に関する件
4. 組換えDNA実験に関する安全委員会委員長

並びに副委員長の委嘱について

5. その他
 - 1) 健康管理医兼衛生管理者の委嘱について
 - 2) 人権教育推進委員会委員の委嘱について
 - 3) 大阪医科大学主関連病院並びに主関連診療科に関する規則中一部改正について

(4月24日)

1. 人事に関する件
2. 倫理委員会委員長及び副委員長の委嘱並びに委員の変更に関する件
3. ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査専門部会部会長並びに部会員の変更に関する件
4. 学校法人大阪医科大学中山国際医学医療交流センター運営委員会委員の委嘱に関する件
5. その他
 - 1) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について

[大学院医学研究科委員会]

(2月6日)

1. 学位論文受理に関する件

(2月25日)

1. 各種委員会委員の改選に関する件

(3月6日)

1. 平成14年度大学院入学試験に関する件
2. 大学院新カリキュラムに関する件
3. 各種委員会委員の改選に関する件

(3月20日)

1. 学位論文審査結果に基づく可(合)否決定に関する件
2. 研究生の願出に関する件

(4月2日)

1. 学外研修の願出に関する件
2. 海外研修の願出に関する件
3. その他

1) 研究生の願出について

2) 研究生の願出に関する件

3) 平成14年度研究生の継続願出について

(4月10日)

1. ティーチング・アシスタント採用に関する件

(4月24日)

1. 盛学術振興基金審査委員会委員の選出に関する件
2. バイオセーフティ実験室管理運営委員会委員長並びに委員の追加委嘱に関する件

主な行事日程表

5月1日から7月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- 5月8日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
ナイチンゲール生誕祭
- 13日（月） 学位論文受付締切
- 14日（火） 理事会
- 22日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 28日（火） 理事会・評議員会
- 29日（水） さつき会
- 6月1日（土） 新入生歓迎会
- 3日（月） 永年勤続表彰式
- 5日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 10日（月） 学位論文提出のための語学試験
- 11日（火） 理事会
- 12日（水） 医学会春季講演会
- 19日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 25日（火） 理事研究会
- 7月6日（土） 夏期休業（第1・2・3・4・6学年）
- 7日（日） 夏期休業（第5学年）
- 9日（火） 理事会
- 10日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 21日（日） 夏期休業（看護専門学校）
- 23日（火） 理事研究会
- 24日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会

附属病院関係

平成13年度下半期附属病院患者動態

昨年度下半期の患者動態は下記のとおりです。

(平成13年10月～平成14年3月)

	入院患者数	外来患者数	対前年度増減率%	
			入院患者数	外来患者数
H13.10	(852.8) 26,438	(2,891.0) 69,384	0.65	7.24
H13.11	(862.9) 25,888	(2,970.0) 65,339	2.26	4.21
H13.12	(825.7) 25,598	(2,994.4) 62,883	1.88	0.08
H14. 1	(755.1) 23,407	(2,814.4) 59,103	1.29	4.68
H14. 2	(878.9) 24,608	(2,822.5) 59,272	0.24	0.61
H14. 3	(863.5) 26,768	(2,799.3) 64,385	1.78	5.76
合計	(839.0) 152,707	(2,881.6) 380,366	0.10	1.76

()内は、1日平均患者数 *平成13年度下半期入院関係稼働日数 182日(平成12年度 182日)
平成13年度下半期外来関係稼働日数 132日(平成12年度 133日)

平成12年度・13年度(年間...1日平均)の動態

区分	入院		外来
	入院患者数	稼働率	外来患者数
12年度	834.7人	83.3%	2,800.3人
13年度	853.7人	85.2%	2,866.5人

上半期(4月～9月.....1日平均)

区分	入院		外来
	入院患者数	稼働率	外来患者数
12年度	831.1人	83.4%	2,790.4人
13年度	868.3人	86.7%	2,851.9人

下半期(10月～3月.....1日平均)

区分	入院		外来
	入院患者数	稼働率	外来患者数
12年度	838.2人	83.7%	2,810.6人
13年度	839.0人	83.7%	2,881.6人

平成14年度附属病院臨床研修医

(83名...学内 62名、学外 21名)

平成14年5月1日現在の各科の臨床研修医数は以下のとおりです。

尚、昨年度は84名。

第一内科：12名 眼科：10名
 第二内科：5名 耳鼻咽喉科：3名
 第三内科：1名 皮膚科：1名
 精神神経科：6名 泌尿器科：2名
 一般・消化器外科：0名 放射線科：4名
 胸部外科：0名 麻酔科：0名
 脳神経外科：7名 形成外科：6名
 整形外科：6名 リハビリテーション科：0名
 小児科：7名 中央検査部・病態検査学：0名
 産婦人科：4名 歯科口腔外科：9名

特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診

実施日時 平成14年 5月29日(水)~31日(金) 午後2時~3時30分

場 所 研究棟1階 講義室

*対象者には事前に健診案内を配布致します。

日本脳炎予防接種

実施日時 平成14年 5月29日(水) 午後2時

接種を希望される方は、保健管理室に申込みをして下さい。申込み期限 平成14年 5月10日(金)

* B型肝炎ワクチン接種を予定されている方はご遠慮下さい。

1回目B型肝炎ワクチン接種、追加ワクチン接種

実施日時 平成14年 6月5日(水)・6日(木) 午後2時30分~3時30分

場 所 研究棟1階 講義室

*対象者は4月に抗体検査を受けてワクチン接種を申し込まれた方(但し昨年3回ワクチン接種された方は対象外)になります。 申し込み期限 平成14年 5月20日(月)

* 2回目ワクチン接種 平成14年 7月3日(水)・4日(木)

針刺し事故について

針刺し事故の予防

この時期、経験年数の少ない研修医や看護婦に針刺し事故が急増します(下図1、図2)。全ての患者の血液は、病原微生物を含んでいると想定し、以下の対処で針刺し事故を予防しましょう。

1 作業時に手袋の着用

2 針の扱い方 針刺し事故はリキャップ時に最も多いので、リキャップをせず速やかに廃棄する。どうしてもリキャップしなければいけない時は、キャップをすくい上げる方法を取り、針が手指に向かないようにする。

3 安全機構付の器材の使用 近年様々な器材が開発されており、本学では、昨年より安全機構付の翼付針を導入しています。価格や操作上の問題はありますが、事故防止のために新しい安全機構付の器材を取り入れていく必要があります。

4 廃棄容器の適性配置 廃棄容器は針を使い終わった時に、すぐに捨てられる場所に置くこと。

針刺し事故時の対処手順

本学のウイルス肝炎対策委員会において、針刺し事故時の対処手順は確立しています。右ページに掲載しました。

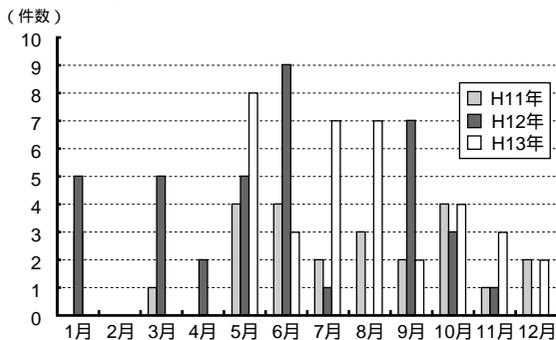


図1 針刺し事故 月別件数

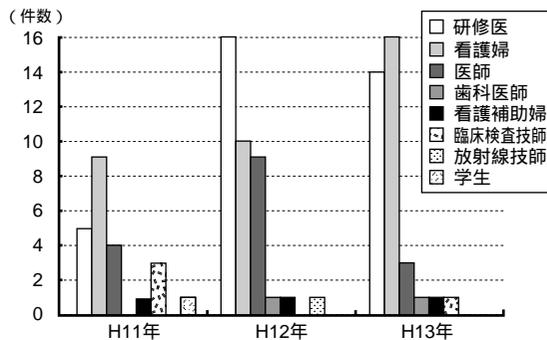
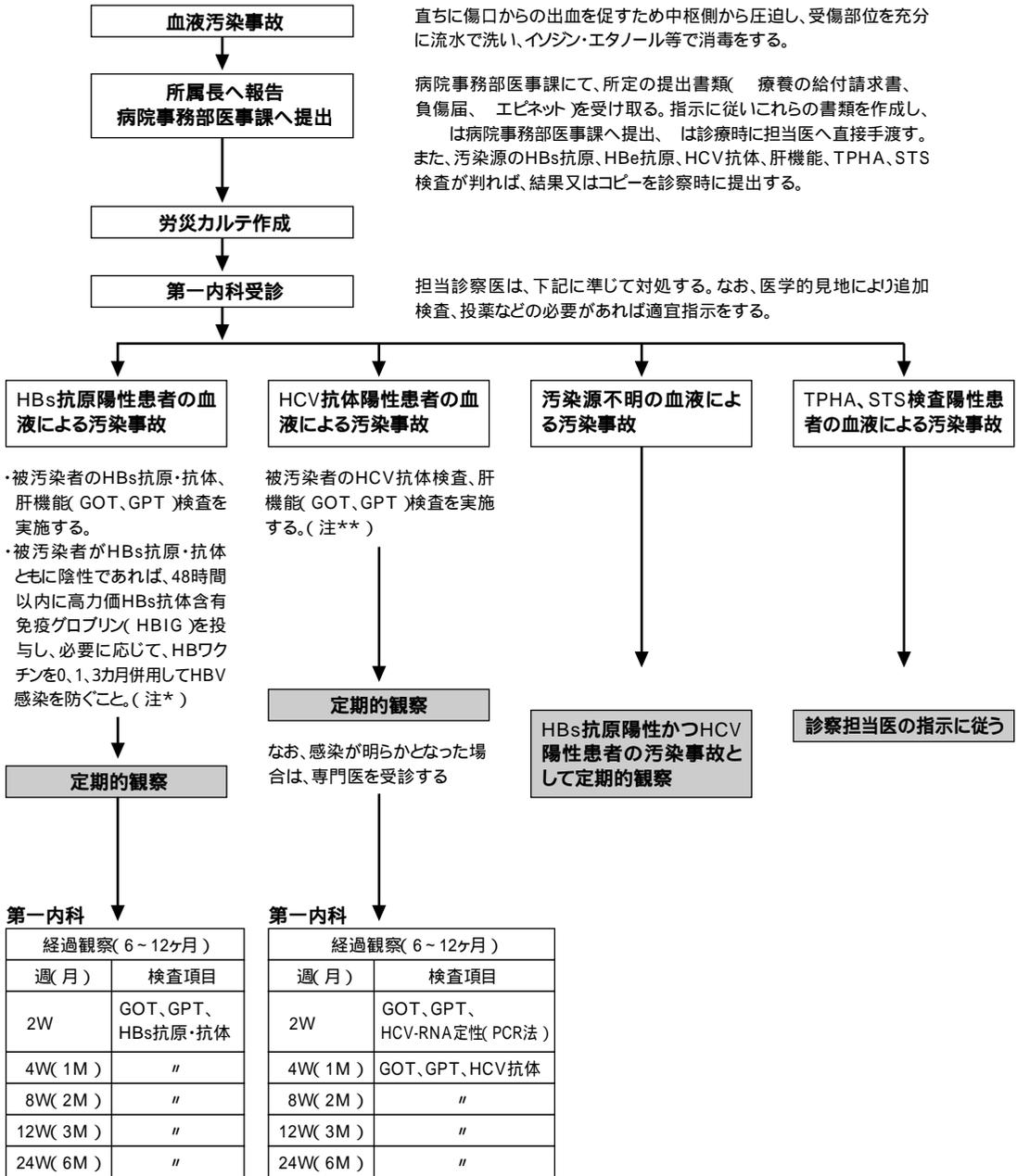


図2 針刺し事故 職種別件数

保健管理室からのお知らせ

針刺し・切創・血液汚染事故発生時の対処手順



注 *他の部署でのHBIGおよびワクチンの投与などは混乱を招くので避ける。

注**HCV汚染に対しては、特異的な予防法がないため、現状では事実を記録としてとどめ、経過観察を行う。感染予防に対するインターフェロンの有効性は確立していない。副作用などの充分な理解のもとで、希望があればインターフェロンの投与も考慮する。

なお、感染が成立する可能性は、極めて低率(約1%)である。万一発症した場合には、治療(インターフェロン)を考慮するが、治癒率は高率(90%以上)である。発症しても30~40%が自然治癒する可能性がある。

以上の処置・治療は、原則として当事者(医療従事者)のコストは必要としません。

ウイルス肝炎対策ガイドラインより抜粋

大阪医科大学俳句会（十二・一・二月）

初午や柵も朱色の稲荷駅

塚本務人

春雨や蝦蛄別々の眼で見てる

今井雄介

をちこちに満天星紅葉武専跡

同

別れては素顔に戻る寒さかな

中川一成

予備校の特大絵馬や春立ちぬ

同

長火鉢湯が練れてゐる未亡人

奥田筆子

笹鳴やプロの嫌ひな良寛さま

吉田孝江

冬霧や花買ふ言葉わからずに

飯塚久子

ふたりには二つの影の寒卵

美濃 眞

余所者に届く闇夜の炭一俵

宮田恵江

納豆とキムチ買ひけり寒の入

山崎隆司

風花の近江八幡堀長し

(投稿)宮脇芳美



投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-0084 高槻市沢良木町 2-41
大阪医科大学さわらぎキャンパス

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

平成14年度 市民公開講座



4月20日（土）午後2時から、本学臨床第1講堂において平成14年度第1回市民公開講座が開催されました。

今回は市民の多数の希望により『不眠について』というテーマで、精神神経科米田博教授の講演で140名を超える聴衆の参加がありました。

講演後、薬剤部からの「お薬について」説明があり、好評のうちに公開講座を終了しました。

次回、公開講座は5月18日（土）上田晃一助教授（形成外科）による『傷・傷跡・ケロイドをきれいに治す』を、また6月15日（土）には『頭痛について 怖い頭痛・怖くない頭痛』をテーマに、黒岩敏彦教授（脳神経外科）の講演が、それぞれ午後2時から予定されています。

大阪医科大学学報 第52号
発行年月 平成14年5月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総務部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/OFFICE/>